

『サイエンスカフェ』

主 催： 日本学術会議
日 時： 平成29年9月22日（金）19：00～20：30
場 所： 日本学術会議6階6-C(1)(2)会議室
テ ー マ： 三浦しをん『愛なき世界』の植物学～サイエンスの現場を伝える試み
講 師： 塚谷 裕一さん（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科・教授）
ファシリテーター： 福田 裕穂さん（日本学術会議会員、東京大学理事・副学長・大学院理学系研究科理学部教授）
参加人数：12名

読売新聞に連載の小説・三浦しをん作『愛なき世界』では、植物学の研究者、それも女性大学院生の生態を主題に扱っています。

サイエンスと文学の間には大きな溝があり、この溝を越えてお互いをわかり合うことは容易ではありません。この本では、サイエンスの現場を、リアリティーをもって文学に取り込むために、エッセイストでもある塚谷教授が全面的に協力しています。講演では、作家と科学者の共同作業を介してみえてきた、サイエンスの現場を社会に発信することの難しさやそれを乗り越えるための手段などについて考えたいと思います。

◎はじめに

ファシリテーターの福田さんより、講師の塚谷さんについての紹介があった。

続いて、講師の塚谷さんより、講演内容について簡単な説明があった。



（左：ファシリテーター・福田裕穂さん、右：講師・塚谷裕一さん）

◎話題提供の主な事項

『愛なき世界』の物語を追いながら、主に以下のような点が紹介された。

□『愛なき世界』の登場人物

- ・藤丸・・・東京都文京区本郷にあるT大学理学部の近くで飲食店を営んでいるお店の新参者の若者。
 - ・本村・・・理学部の大学院で植物学を専攻している大学院生。ヒロイン。
- ー日本の小説で、理学系の大学院生がヒロインということは、なかなかない設定だと思われる。

□一般の人にとっての植物学

- ー植物学というのは、一般の人にはあまり知られていない。
- cf. ブック本の話

□シロイヌナズナ

- ー世界中で一番よく研究されている実験植物。（「モデル植物」）
- ーすぐに成長し、種が取れる。（塚谷さんの実験室では、種をまいてから次の種になるまでに一ヶ月半程度。）
- ーゲノムが全て解読されているため、「どの遺伝子をいじると、どういう結果になる」ということが分かる。

ここで、塚谷さんより、シロイヌナズナの種が参加者に回された。



併せて、シロイヌナズナを入れている容器（エッペンドルフチューブ）も回された。



□エッペンドルフチューブ

- 生物系の実験室の基本アイテムだが、一般的にはあまり知られていない。
- さまざまな用途がある。

□日本の小説における科学者の描写

- これまでの小説では、実態とは少し違う描写もあったと思うが、今回の『愛なき世界』では、正しい描かれ方がなされているように思われる。

その後、会場との質疑が行われた。主な内容は以下のとおり。

◆- 塚谷先生は一番最初に、どうして植物を研究したいと思ったのか？

- 今でも好きだが、最初は昆虫が好きだった。ただ、例えば、「ユスリカ」は身近な昆虫だが、日本に推定2000種いると言われている。しかし日本で「ユスリカ」を知りたいと思ったときに、昆虫図鑑などを見ても、300種類ほどしか調べられない。

花の場合は5000種で、ユスリカの2.5倍。しかも図鑑にもちゃんと載っているのに、載っていないものは新種ということになる。知りたいものの名をきちんと知ることができる。そういった点にひかれた。

◆- 男女共同参画の話が出てきて衝撃を受けた。かなりリアルな描写。こちらは塚谷先生が作者に伝えたのか？

特に、送別会がたくさんあった、という描写が胸に刺さった。私も女性の研究者だが、確かに送別会で送りだすのは女性が多い。わかりやすい例で衝撃を受けた。

- これは三浦さんがご自身で見つけられたこと。取材には何度も来られて、学生さんたちに話を聞かれていた。いつのまにこんなに観察していたのかと、連載が始まって

からびっくりした。把握のされ方がすごい。

- ◆—先生のお書きになった『植物のこころ』を読んだ。植物と人間が心を通わすという
ようなロマンチックなことではなく、植物には植物の世界があるけれど、それを先生
がどんなにお好きかということが伝わってきた。
- 『植物のこころ』では、植物に心はなく、人間と心を通わせることはできないが、
それでもいとおいしい存在であるということを主張したつもりだが、『愛なき世界』で
ももしかしたら、背景としてその主張をとっていただけたのかも、と思っている。
- ◆—今日先生のお話を伺ってこの話の印象が変わった。研究のことはよくわからずあま
り注目していなかったのが、今日は来てとてもよかった。もう一度読み直したくなっ
た。
- 逆に私としては、実験の説明が詳細でとても長くなっており、これを読んで読者の
方は飽きてしまわないか少し心配だった。
- ◆—今振り返ってみて、植物の研究を続けてこられて、どんなところが見えてきて更に
面白くなったのか教えていただければ。
- 興味の対象がどんどん広がっていき、見尽くしてみたい、仕組みが知りたい、
その仕組みの背景には…と先は果てしなくある。私自身はひとつのテーマだけでなく
色々な対象に興味があるので、学生や仲間を手伝ってもらいながら今後も進めていき
たい。

